

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

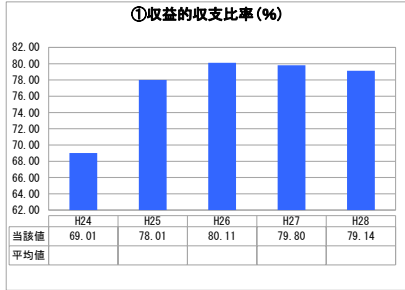
神奈川県 逗子市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Bc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	100.00	76.55	1,760

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
60,154	17.28	3,481.13
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
60,081	8.64	6,953.82

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



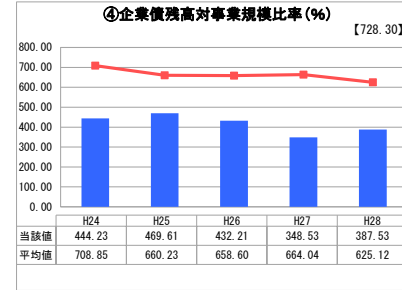
「単年度の収支」



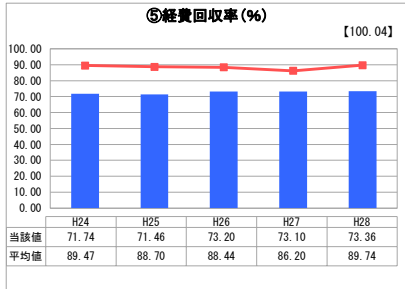
「累積欠損」



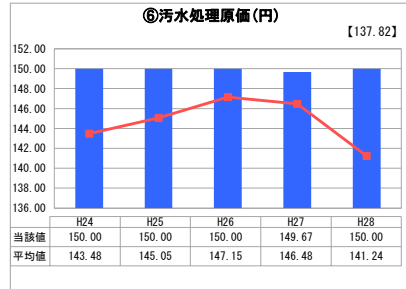
「支払能力」



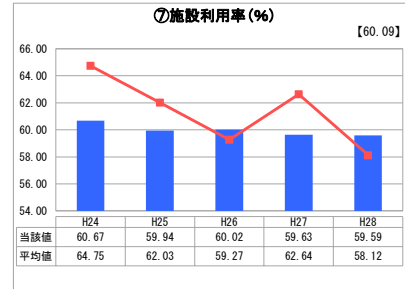
「債務残高」



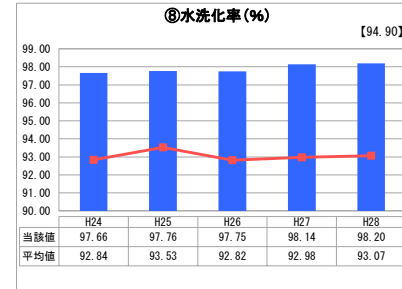
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

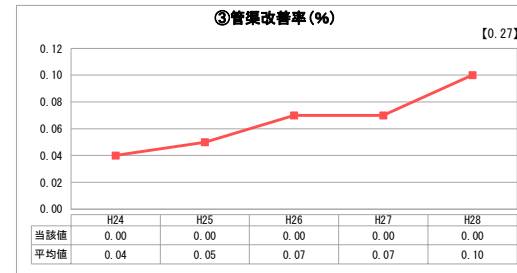
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率は近年80%前後であり、また、経費回収率も70%前後と低く、適正な使用料収入の確保等により経営改善を図っていく必要があります。企業債残高は類似団体と比較して低い傾向にありますが、今後施設更新に伴う地方債の増額が見込まれ、今後より厳しい経営状況に推移していくことが予想されます。また、汚水処理原価も高い状況にあり、不明水対策など有収水量を増加させる必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

昭和40年代後半に供用開始した本市においては、法定耐用年数を超えた管渠はないものの、老朽化は深刻な状況であり、調査・診断を行い優先順位をつけ、また、適切な投資規模にも留意しながら、計画的な改築・更新を行う必要があります。

## 全体総括

施設の老朽化が進んでいることを踏まえると、厳しい経営状況に推移することが予想されるため、収益的収支比率を低下させないよう、投資計画の見直しや維持管理費の削減に努めます。また、使用料収入に関しては、平成31年度に地方公営企業法の適用やその後の経営戦略の策定を予定しており、これらを通じて経営状況を的確に把握し、見直しの必要性や時期について慎重に検討していきます。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。